

<p><b>部 会 名</b></p>	<p><b>自営型テレワーク支援エージェント部会</b></p>
<p><b>背 景</b></p>	<p>労働人口の減少、急激な社会環境の変化等により、国全体として労働モデルについて検討が進められているが、主婦のような家庭にある人材、シニア人材、地方にある人材など、在宅等であれば就業できる潜在的な労働力をいかに活用できるかが大きな課題となっており、自営型テレワーカーの存在および活用モデルが注目を集めている。</p> <p>このリソースを活用するための課題としてあげられるのが、ビジネスマナーおよびビジネススキルの習得などの教育であり、また契約交渉・手続きも含めた仕事のマッチングである。この課題等を担いサポートするのがエージェントであり、自営型テレワーカーがその存在に期待しているところである。</p> <p>また、東日本大震災によって働く場を失った方々を支援するため、被災地のエージェントの活用及び支援・活用を含めあり方を検討していくこととする。</p>
<p><b>活 動 内 容</b></p>	<p>(1)部会は、次のような方針で実施予定。</p> <p>①東日本大震災および今夏の節電等対策を踏まえたエージェント及び自営型テレワーカーの直近情勢及び課題について、部会員および外部団体等も含めた情報交換を実施し、現状における課題を把握、エージェントによる自営型テレワーカーの支援および活用方法について検討する。</p> <p>②エージェントによるマッチングに必要とされる要件等を発注側となる企業の方も含め相互の情報交換を行うとともに、自営型テレワーカーに必要とされているシステム面やセキュリティ条件等を含め検証および検討する。</p> <p>③被災地の復興支援に向け、被災された方々を自営型テレワーカーとしての活用するため、あるいは被災地のエージェントのあり方について情報交換をしつつ検討する。</p> <p>(2)活動期間及び回数(予定)</p> <p>2011年7月から2011年3月まで5～7回程度。</p> <p>(3)成果報告</p> <p>①2011年度に成果発表会で報告。</p> <p>②「自営型テレワーカー支援方法および活用事例」の報告書を作成。</p>
<p><b>アドバイザー</b></p>	<p><b>法政大学大学院 諏訪 康雄 教授</b></p>
<p><b>事 務 局</b></p>	<p><b>鈴木 洋 主席研究員</b></p>